

苦む者も暫く其の痛苦を忍んで、雄々しく男らしく労働者團結の本體たる労働組合の發達に努力し、過去に拂った犠牲をして空しくおぼしめはし、いかにしなすべからぬ。此處に大日本救世團なるものがある。彼等は我等が運動の結果多数の失業者を出したりと聞くと、突如失業者を其の本部に連れ来て、今までの総ての行爲を改悔懺悔し、善業なる労働者たる然らば救世團は誓って数日中に復職せしめ、其の生活問題も途上に迷ひ前に述べたる如く自覺を有せざる者の弱点を巧みに捉へた。而して此が陸軍大将大退官の名に依りて、抑さる。未だ旧も因襲に囚はれて其の威力と自信する一部の労働者が過去への尊厳犠牲を、弊履の如く捨て、飢饉の前に屈服したる心情は憫む可きも、彼等が魚白費の飢饉に乘りて、労働者が意見、

る運動と犠牲を蹂躪し、一庖の好餌に依りて再び労働者を奴隸の境地に蹴落さんとしたる態度に對しては我等の憎悪と憤怒に堪へざる所である。

救世團が失業者の一部に向て此の目的となしたるは本年八月二日の夜である。大將の名を依りて、此の數日後の指し約は失業者の一部が所謂懺悔の言を發表する處の明老神宮造営の土工として泥に塗抹して、彼等も都立二新聞の如きは、失業して乞食同様になつてゐる。報せられたるに依りて、三ヶ月を経過した。而かも復職なる事、實質は何時行はれるか全く不明である。不明なるのみが本組合幹部は、失業の心情を憫むの餘り、東京電氣料局の態度を糾したるが復職又は再採用は絶対に許容しな、意見なるを、確認した。十月二十八